令和５年（2023年）度行政評価シート【個表】

令和　5 年　8 月　10 日

評価対象事業		評価者	生涯学習課長　中島　丈夫
教育-44	鎌倉国宝館管理運営事業	■ 自治事務	主管課：生涯学習課
		□ 法定受託事務	関連課：文化財課

総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保護

1　事業の目的

対象	市民等
意図	鎌倉ゆかりの文化財を収集、受託、保管し安全に後世に伝えるとともに、調査・研究、展示をとおして市民等の利用に供するため。
効果	現在、国宝5件43点、重文75件872点をはじめ、館蔵品・寄託品併せて1,000件、5,000点を超える収蔵品を保管し、文化財の保全と活用を図る。

2　令和4年（2022年）度に実施した事業の概要

新型コロナウィルス感染拡大対策を講じながら、特別展や特集展示を企画・開催するとともに、列品解説、特別解説を行った。また、学芸員資格の取得を目指す大学生対象の博物館実習を実施したほか、高校生のインターンシップの受け入れを行った。

大河ドラマ放送に関連した特別展を全4回企画・開催したほか、シンポジウムの開催、北条氏に関する取材対応や画像等の貸し出し対応を行った。また、鎌倉歴史文化交流館や鎌倉殿の13人 鎌倉市推進協議会等と連携した取組を行った。

3　事業を構成する事務事業（最小事業）実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業（主な経費等）	指標（単位）	令和4年度 指標（実績値／目標値）	令和4年度 事業費（決算／当初）（千円）	令和5年度 指標（目標値）	令和5年度 予算額（千円）	達成度
01	公益財団法人氏家浮世絵コレクション助成事業	氏家浮世絵コレクション補助金（519千円）の交付	浮世絵展来館者数（人）	4,742人 / 5,000人	519 / 519	5,000人	519	94.84%
02	鎌倉国宝館協議会運営事務	鎌倉国宝館協議会の開催	協議会開催回数（回）	1回 / 2回	62 / 124	2回	124	50%
03	鎌倉国宝館展示・教育等事業	年6回の特別展の開催や、情報収集及び調査研究を実施	年間来館者数（人）	94,970 / 80,000人	23,084 / 32,686	50,000人	17,277	118.71%
04	鎌倉国宝館維持管理事業	収蔵品整理アシスタントによる収蔵庫整理等の保存環境の整備、博物館機能を維持するため、各種設備の点検・保守業務を実施	開館日数	225日 / 250日	58,017 / 54,495	250日	59,454	90%
05	鎌倉国宝館維持修繕事業	博物館施設の維持のため、必要に応じた設備修繕を実施	（－）	（－） / （－）	11,222 / 7,676	（－）	58,588	
06				/	/			
07				/	/			
08				/	/			
09				/	/			
10				/	/			
		財源内訳	国県支出金	/				
			地方債	/				
			その他特定財源	20,440 /	24,201		30,273	
			一般財源	72,464 /	71,299		105,689	
		事業費の合計（千円）		92,904 /	95,500		135,962	
		人件費（千円）			29,726		30,138	

4　この事業に関わる職員数（毎年度4月1日時点）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	4.0	4.0	3.4	3.2		
会計年度任用職員	3.2	4.0	3.0	4.0		

5　評価結果

（1）最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	公益財団法人氏家浮世絵コレクション助成事業	指標分析の推移については、コロナ禍においての指標の設定は困難であるが、感染対策を講じながら現状維持を目指す。 なお、令和4年度浮世絵展の来館者数4,742人については、開館日数12日（3月18日～31日）に対してであり、1日平均は約395人であった。目標は未達であったが、1日の来館者数としては、例年より大幅な増加となった。 助成を行う効果として、当該コレクションを出品する展覧会への来館者数及び観覧料収入の増加が期待されるほか、財団が作品の修理事業を進めることで、鎌倉の文化財保護の促進に繋げることが可能となる。	昭和49年10月1日に財団が設立され、昭和55年6月6日付けで市と財団とで締結した覚書に基づく事業であり、歴史的遺産と共生するまちづくりに貢献する例年開催の浮世絵展を支える事業となっている。	多様な観覧スタイルやニーズに対応するため、今後の事業展開のあり方を検討していく必要がある。
02	鎌倉国宝館協議会運営事務	当該協議会は館長の諮問機関として、博物館活動への有益な指導・助言等を得る機会を提供しているため、着実な開催が望まれる。	当協議会からの指導・助言は、歴史的遺産と共生するまちづくりに貢献する当館の博物館活動を展開する上で、必要不可欠の諮問機関である。	現在、委員6名のうち女性委員は3名であり、今後も改選の際には女性委員の登用について検討を進める必要がある。
03	鎌倉国宝館展示・教育等事業	指標分析の推移については、コロナ禍においての指標の設定は困難であるが、感染対策を講じながら現状維持を目指す。 令和4年度は、新型コロナウィルスの感染拡大対策を講じながら、臨時休館を実施せずに特別展や特集展示を企画開催した。そのため、来館者数は令和3年度から約287%増となった。 博物館施設における展覧会他の教育普及活動は、いかに多くの市民等に観覧してもらえるかにかかっているため、今後も指標として有効と考える。	博物館活動の中核をなす事業であり、当該事業の成否は、歴史的遺産と共生するまちづくりの具体的打出しとして、特に重要である。	博物館は、来館者数を増加させるためには、周期的に適度な展示替えが必要であり、企画展示や特別展示のほかに展示室のリニューアルなどを画策し、より優良な展示企画を行うとともに、多彩な体験学習メニューの開発・実施等が必須であり、そのコーディネーターとしての学芸員の増員・充実を図る必要がある。 また、学芸員が上記の業務に専念できる環境を整えることが必要である。
04	鎌倉国宝館維持管理事業	指標分析の推移については、コロナ禍においての指標の設定は困難であるが、感染対策を講じながら現状維持を目指す。 令和4年度は、臨時休館せずに展示活動を継続できた。開館して収蔵資料等を市民の観覧に供することが博物館の基本的な活動であることから、開館日数は指標として有効と考える。	収蔵資料の保存管理は博物館の基礎的機能であり、保存環境を維持していくことは教育普及他の博物館活動の打出しを支える重要な事業である。	今後も計画的に収蔵品整理を進めていく必要があるが、昭和58年竣工の新館の収蔵庫や、昭和3年開館時からの本館展示場について、近年では施設の老朽化に伴い、温湿度を一定に保つのに腐心している。また、施設・設備全般の老朽化の進行に伴い、毎年、施設修繕が必要不可欠になっており、大規模な改修・更新が必要となる時期が迫っている。抜本的な改修を行う時期が迫っている。

05	鎌倉国宝館維持修繕事業	設備等の維持修繕が主な事業となるが、これらは目標値の設定にはなじまない。	施設・設備の維持管理は、博物館の重要な機能である資料の保存管理、教育普及活動を展開する上で、必須の業務である。	当館は昭和3年に開館の築90年を経過している施設で（新館は昭和58年竣工）、近年では老朽化等に伴い、毎年、施設修繕が必要不可欠になっており、大規模な改修・更新が必要となる時期が迫っている。
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

（2）視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1　事業費の削減余地はない	
	事業の外部化（民営化・業務委託等）はできないか		1　実施済み	
	関連・類似する事業の統合はできないか		2　統合に向けて検討できる事業がある	
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1　市民ニーズは変わらずにある	
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		2　民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している	
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		1　目的達成のために適切な手段（最小事業）である	
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済	○-2　適正な受益者負担を導入している	
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	△-1　今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある	
			協働実施済の場合のパートナー	社寺等

（3）総合評価　　※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】　■ 拡充　□ 改善・変更　□ 現状維持　□ 縮小　□ 休止・廃止

鎌倉ゆかりの文化財を適切かつ確実に将来に継承し、市民等の文化的ニーズに積極的に応えていくことは、歴史文化都市鎌倉の使命であり、その中核となる施設として登録博物館たる鎌倉国宝館は必須である。

当館の各事務事業は、博物館活動を展開する上で必須の事業であり、特に教育普及活動の積極的展開とそれを支える調査研究活動の充実を図る必要があるとともに、施設の老朽化対策は喫緊の課題として取り組む必要がある。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標（単位）	入館者数					単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
博物館活動の成果は、展覧会他の教育普及活動に、いかに多くの市民等が訪れたかにかかっているため。	目標値	30,000	30,000	80,000	50,000	50,000	70,000
	実績値	16,010	24,516	94,970			
	達成率	53.4%	81.7%	118.7%			

指標（単位）	開館日数					単位	日
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
収蔵資料等を公開し、市民等の文化活動に資するためには、開館して展覧会等を開催することが基本となるため。	目標値	250	250	250	250	250	250
	実績値	197	264	225			
	達成率	78.8%	105.6%	90.0%			

◎他市比較・ベンチマーク（県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値）

比較事項	神奈川県内の公立博物館における1日当たりのオープンスペースの規模に応じた入館者数							
団体名	鎌倉国宝館	横浜市歴史博物館	相模原市立博物館	横須賀市自然人文博物館	平塚市立博物館			
令和2年度	０．１４人	０．０８人	０．０８人	０．２２人	０．０５人			
令和3年度	０．１６人	０．０８人	０．１１人	０．２６人	０．０８人			
令和4年度	０．７１人	０．１２人	０．１３人	０．０９人	０．０９人			

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	博物館施設における年間入館者数はベンチマークとなりうるが、規模や開館日数などの違いがあり単純な比較は困難であるため、展示室他のオープンスペース面積や開館日数を考慮する必要がある。 そこで、有効な数値を次の計算式で求めることとする。 有効数値＝年間入館者数÷年間開館日数÷オープンスペース延べ床面積